

2022 年度 3 学期始業式

皆さん、あけましておめでとうございます。

皆さんお一人おひとりがご家族と共に、和やかで健やかなクリスマス、そして年末年始を過ごされたことと思います。

お年賀状をくださった方々、ありがとうございます。充実した冬休みを送っていらっしゃる様子を伝えてくださった方、昨年一年を振り返った上で、今年の決意や抱負を教えてくださいました。皆さんからのお年賀状のおかげで私は晴れやかな気持ちで今日という日を迎えることができました。感謝申し上げます。

いよいよ今日から 3 学期が始まります。

冬休みの間、東京は晴れの日が多く、比較的穏やかな日が続いていました。一方で日本全国に目を向けると、大寒波襲来により大雪が降って停電となり、公共交通機関が止まったり交通渋滞が起こったりしました。さらには雪崩や山形の土砂災害に至るまで様々な被害がありました。アメリカでも記録的な大寒波がありました。

また、日本においては 3 年ぶりとなる行動制限のない年末年始でした。そのおかげで皆さんの中には、今まで会えなかった方との再会を喜んだ方もいらっしゃったのではないかと思います。一方でロシアによるウクライナに対する攻撃はクリスマス、そしてお正月も残念ながら続きました。ウクライナではインフラ施設へのミサイル攻撃により停電となる場所があり、寒さに凍える人々がいます。ウクライナ人もロシア人も戦闘により亡くなる方、怪我をする方が後を絶ちません。日本国内においても家族で過ごすことの多いクリスマス、年末年始ですが、身寄りのない方々にとってはますます寂しく切ない時とを感じるようです。

私たちはこのような対照的な状況をどのように捉えればよいのでしょうか。クリスマスもお正月も新しい命を喜び、祝福し合うものです。

しかし、自分の周りが喜ばしい状況にあっても、視野を広げると、そこには必ず苦しんでいる人がいて、解決できない問題があります。

終業式の際に、一見快く思えない出会いや存在もすべて喜びの対象に変えてしまう方法・生き方を教えてくれる本としてエレナ・ポーター著・村岡花子訳「少女パレアナ」(角川文庫)を紹介いたしました。ここでは、この問いに対するヒントとしてももう少し詳しく紹介したいと思います。

パレアナは、生まれて間もなく母親が亡くなり、11 歳で父親が亡くなります。それで、会ったことのない叔母様のもとに引き取られることとなります。叔母様は、ただ義務感のみでパレアナを引き取っていて、決して愛情があるわけではありませんでした。しかし、パレアナは父親から教わった「喜びの遊び」のおかげで、自分の周りに起こる出来事、自然や窓から見える景色、出会うものすべてのものの中に良いことを見出し素直に嬉しいと思い、喜びを感じます。見知らぬ人にもいつも笑顔で積極的に話しかけます。おかげで、パレアナと

知り合いになった人たちは、不平不満でいっぱいだった人も、人との関わりを絶ち孤独に陰気に暮らしていた人も、パレアナに感化されて「喜びの遊び」をし、毎日の生活が明るく張りのあるものになりました。一人ひとりの心のあり方が変わっていくと、仲違いしていた人たちも仲直りをし、人と人の心を結びつけていくこととなりました。

「少女パレアナ」は、光塩女子学院の朝の祈りの中にある「喜びと光をまく」ことを自然に行っていたと言えるでしょう。

私たちもこのように生きられれば良いのですが、現実にはなかなかうまく行きません。少女パレアナのように 11 歳や 12 歳の時にはできていたかもしれませんが、思春期・青春期に入っている皆さんには、難しく感じられるのではないかと思います。

実は「少女パレアナ」に続く作品として「パレアナの青春」（角川文庫）があります。このお話によると、少女パレアナは 13 歳になり、一冬をボストンの知り合いのもとに預けられ、過ごしました。ボストンという大都会には多くの人がいるけれども、それまで暮らしていた田舎とは違い、笑顔で話しかけても見知らぬ人は決して応じてくれません。みんな軽く答えて行ってしまいか、無視して通り過ぎてしまいます。そんな中でも、一冬のうちにパレアナは身近な人から少しずつつながりを広げていき、人と人を結びつけて行きました。

しかし、ボストンから叔母様の元に戻った後、叔母様たちとドイツへ行くこととなります。時と共にパレアナも成長して以前のように無邪気に「喜びの遊び」をすることは難しくなりました。周りの人たちに勧めることもなくなります。

20 歳になって帰国し故郷に戻りますが、自分の心の中のこと、そして周りの人との関わりにも悩み、経済的な不安も感じるようになります。両親以外の大切な人の死にも直面しました。こうして、深い悲しみ・憂いを知ったパレアナは、他の人の苦しみや悲しみにもそっと寄り添うことのできる大人へと成長していきます。ただし、「喜びの遊び」を忘れた訳ではありません。様々な困難に直面しても、それを静かに受けとめ、置かれた状況の中で喜びと希望を見出していくことには変わりはありません。

私たちの身の周りでも、そして、遠く離れたところでも様々な困難があり、解決できない問題があります。そのような中でも希望を見出し、喜びへと変えていく 3 学期、1 年にして参りましょう。

特に高 3 の皆さんは、卒業までの登校日数も一桁となり、自宅学習日と入試の日が続いていきます。今の営みは決して無駄にならないものです。うまく行っているときは、喜びのうちに、うまく行かない時は、その時こそ、日常の中の小さな喜びを見つけ、感謝しつつ希望を持って一步一步進んでください。